

#6 Team LeMans Audi R8 LMS  
Yoshiaki Katayama  
Roberto Merhi Muntan



大会概要

2022年 SUPER GTシリーズ 第8戦

大会名称

2022 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL

開催日時

11月5日 土曜 (予選) 11月6日 日曜 (決勝)

開催サーキット

モビリティリゾートもてぎ (1周: 4.801km)  
栃木県芳賀郡茂木町松山120-1

同時開催レース

2022 FIA-F4選手権 第13戦・第14戦

主催

ホンダモビリティランド株式会社/エム・オー・スポーツクラブ (M.O.S.C.) /株式会社GTアソシエイション

公認

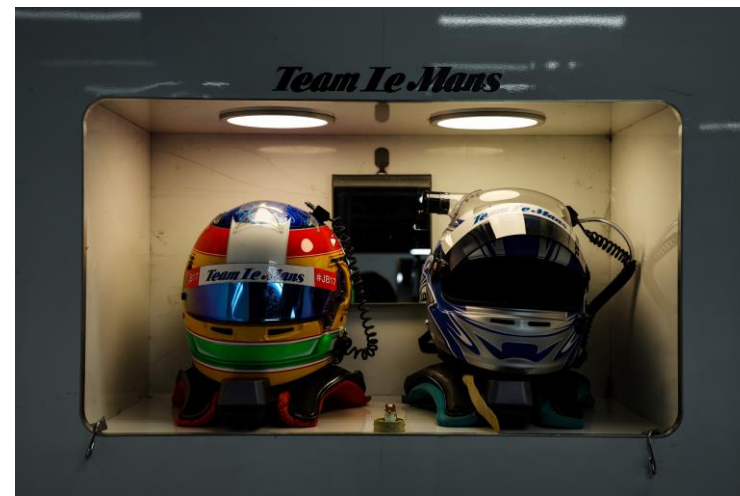
国際自動車連盟 (FIA)  
一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエイション

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/茂木町



## ◆ 参戦体制

## ■ ドライバー



片山 義章  
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日  
出身地 愛知県  
身長 168cm  
体重 69.3kg  
血液型 RH+O



ロベルト メルヒ ムンタン  
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日  
出身地 スペイン  
身長 178cm  
体重 70kg  
血液型 RH+O

## ■ 監督



小倉 啓悟  
KEIGO OGURA

## ■ スタッフ

チーフエンジニア 近藤 良一  
チーフメカニック 田村 貴史

## ■ スポンサー

ザーレン・コーポレーション株式会社	株式会社デジテックエイチピー
TONE株式会社	ウエスタンデジタルジャパン株式会社
ニチアス株式会社	医療法人さかくら耳鼻咽喉科
エバー株式会社	ARMS株式会社
カトー機械株式会社	ブランデュース株式会社
城東電機株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
コスモ開発株式会社	B.R.M / Viron Japan 株式会社
高新自動車学校	見田工作株式会社
株式会社ジョイフル設備	SPIN OFF
青山エレベーター株式会社	有限会社ます徳
岡田金属株式会社	株式会社玉井設計
エルアイビーリゾート株式会社	小原建設株式会社

## ◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 16℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 27℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時20分 (GT300クラスQ1-A組開始)



前回のオートポリスでは、予選でのエンジン不調や決勝での給油トラブルなどにより20位に終わったTeam LeMansは、2022シーズンを入賞で締めくくべく、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メルヒとともに、モビリティリゾートもてぎの最終戦に臨んだ。

11月5日の午後には、決勝のスターティンググリッドを決めるノックアウト方式の予選が行われた。参加台数が多いGT300クラスでは、A、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出するが、ここモビリティリゾートもてぎには27台がエントリーし、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはQ1-A組でまずはQ2進出を目指す。

**#6 Team LeMans Audi R8 LMS**

**予選結果：10位 (予選Q1ベストタイム：1分46秒333/メルヒ選手)**

**(予選Q2ベストタイム：1分46秒759/片山選手)**

青空は広がるものの、やや低めの気温のなか行われたQ1はメルヒが担当。10分間のセッションが終盤を迎えたあたりでタイムアタックが本格化。メルヒは残り1分、計測3周目に1分46秒333を叩き出し暫定4位。その後、このタイムを上回る者もあったが、最終的にはトップからコンマ394秒差の6番手で、見事Q1突破を果たした。

続くQ2は15時13分にスタート。片山がタイヤのウォームアップを終え、いよいよタイムアタックに入ろうというところで、ストレート上で単独アクシデントが発生し、そのまま車両はストップしたことから、セッションは赤旗中断。15時31分には残り5分でセッションが再開され、片山は短時間で再度タイヤのウォームアップを終わらせタイムアタックを開始。しかし、1周目は運悪くまだウォームアップ中のマシンに引っかかり、タイムアタックを断念。次の1周にかけた片山は、厳しい状況にもかかわらず1分46秒759を叩き出すことに成功。第5戦の鈴鹿と並ぶ、今シーズン最高位の10番グリッドを獲得した。

## ◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 16℃ (スタート時)

路面温度 27℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時07分

レース予定周回数 63周 (約300km)

#6 Team LeMans Audi R8 LMS (片山&amp;メルヒ選手)

決勝結果：13位 (所要時間：2時間6分21秒974=60周消化/ベストラップ：1分48秒701=メルヒ選手)



朝から快晴に恵まれたモビリティリゾートもてぎでは、13時7分、63周・300kmのレースがスタートを切った。直前のウォームアップでは、走行中に右リアホイールが外れるというトラブルに見舞われたが、チームは予定どおり決勝のスターティンググリッドにマシンを送り出すことができた。

スタートは片山が担当。オープニングラップでポジションを9位に上げると、その後レースは、8周目にGT500とGT300のマシンが多数絡むアクシデントが発生してFCYが導入され、さらにセーフティカーの導入、セーフティカーラン中のアクシデントなど荒れた展開となる。それでも、片山は落ち着いた走りポジションをキープ。セーフティカーラン解除後には6番手までポジションをあげ、23周を終えたところでメルヒにマシンを託した。

21番手でコースに復帰したメルヒは、長めのスティントになることからタイヤをセーブしながらも、26周目にはチームベストの1分48秒701をマークするなど速さも示し、ポジションアップへの期待が高まる。ところが、周回を重ねる途中でサスペンションまわりの異常に襲われ、33周を終えたところで緊急ピットイン。これにより18番手から21番手までポジションを落としてしまう。

それでもメルヒは追い上げの手を緩めず、上位勢に迫るペースで周回を重ねていく。さらに残り数周というところで1分49秒~50秒のタイムを連発し、19位から13位まで驚異的な追い上げを見せた。そのままレースはフィニッシュを迎え、#6 Team LeMans Audi R8 LMS は13位完走で最終戦を終えることとなった。

### 片山 義章 選手のコメント

私が担当するレース前半でポジションをキープして、後半にニュータイヤを履いたロベルトが追い上げるという展開を考えていました。しかし、ロベルトのステントでサスペンションまわりにトラブルが発生し、ピットストップを強いられたことで、入賞には届きませんでした。ロベルトが速かっただけに、最終戦で今シーズンベストの結果が残せなかったのは残念です。

今シーズンを振り返ると、開幕戦の岡山と第5戦の鈴鹿で5位入賞できましたが、うまくいかないレースもあり、また、最後の3戦で結果が残せなかったのがとても残念です。それだけに、来シーズンはさらに良いレースができるチームをつくっていきたいと思います。第2戦から加わったロベルトには教わる事が多く、ドライビングやレースのストラテジーなど、吸収することがたくさんありました。おかげで僕自身もこの一年で大きく成長できました。できれば来シーズンもロベルトと一緒に戦い、シリーズチャンピオンを目指したいと思います。

### ロベルト・メルヒ・ムンタン選手のコメント

レース前半は、ヨシ（片山）が上手くスタートを決めて、ポジションを9位に上げてくれたのが良かった！ところが、私にドライバーを交替したあと、サスペンションまわりにトラブルが発生。予定外のピットストップで21位まで順を落とすことになってしまいました。それがなければレースは上手くいったはずです。

私が任されたステントは長かったので、終盤までタイヤをセーブし、最後に追い上げて順位を上げる展開になりました。ただ、表彰台に乗るつもりでこのもてぎに来ていたので、13位という結果には到底満足していません。

今年から参加したTeam Le Mansは、とても良いチームだと思いますし、チームもチームの皆も大好きです。まだまだ改善すべき点はありますが、それができればさらに上位を狙えるチームになると確信しています。

### 小倉 啓悟 監督のコメント

片山もロベルトもしっかり走ってくれましたし、マシンも速さを見せることができましたが、トラブルによりポイントが獲得できなかったのが悔しいです。菅生、オートポリス、そしてここもてぎと、トラブルが3戦続いてしまったことをチームとしては重く受け止めています。来年に向けては、このシーズンオフにしっかりと見直しをして、上位で戦える体制を築きたいと思います。

片山については、参戦2年目ということもあって、速さに磨きがかかる一方、落ち着いたレースを見せるなど、成長が感じられました。ロベルトの加入も良い刺激になったと思います。3年目を迎える来シーズンは、さらなる飛躍を期待しています。



